

平成 30 年度 第 1 回図書館協議会 会議録（案）

- ◎開催日時 平成 30 年（2018 年）6 月 17 日（日）10 時～12 時
- ◎開催場所 野洲図書館 事務室
- ◎出席者 早川久登【委員】、松山裕子【委員】、川端初美【委員】、國松完二【委員】、五十嵐芳子【委員】、遠藤正一【委員】、高野真知子【委員】、吉野澄子【委員】（【委員】合計 8 名出席）
教育部【次長】、図書館長、主査（司書）
欠席【委員】 2 名（築山晴菜【委員】、増田多美子【委員】）

傍聴者 2 名

*配布資料について

ここに掲載した以外の資料については、図書館本館および中主分館で、図書館協議会議事録とともに公開しています。

HP に添付した資料「図書館の評価について」は、第 1 回図書館協議会で協議した外部評価の内容を後日入れたものです。（当日の配布資料では外部評価は空欄です）

1. 開 会

2. 新委員紹介

中主中学校の福井校長先生の異動に伴い、同中学校の高野真知子校長先生が後任として委員に着任。

3. 議 事

（1）平成 29 年度図書館事業報告について

【事務局】（資料に沿って説明）

【委員】（高島市が野洲市と同程度の人口規模の自治体の中で高い貸出実績を挙げていることについて）高島市と野洲市の違いは何ですか。

【委員】高島市は合併前から、今津の図書館が、人口 1 万人くらいの町の中では飛びぬけてよいサービスをしていました。（現高島市の）他の町も人口の規模に比べると大きな図書館を作りました。高島市は市域が広く、バス通学の生徒が待ち時間に図書館を利用しに来ます。学校がたくさんあり、以前から図書館から学校への直接のアプローチも積極的に行っていました。合併してからも、新旭を図書室から分館の位置づけにするなど、サービス体制をきちんとしてきた。今津と安曇川の 2 つの図書館が残りの図書館をひっぱっていつている。現在は人口減が激しく、苦勞しているようです。

【委員】野洲は人口は増えているのに、利用が減っています。守山市は現在仮設の図書館であるが、守山市民は他市の図書館の利用も含めて、アクティブに図書館を活用しています。

【委員】守山市の仮設の図書館の利用が多いことについて、狭いのでかえって本が探

しやすい、雰囲気が良い、という意見もあります。

【会長】今は求める本が仮設の図書館にないことも多いため、はじめから職員に本の所在を聞くようになり、かえって便利になったという声もあります。

(2) 平成 29 年度図書館の評価について

【事務局】(来館者アンケートと「図書館の評価」平成 29 年度実績分の内部評価を提示、資料に沿って説明)

<来館者アンケートについて>

【委員】自由記述に開館時間の短縮のことがかなり書かれているが、また前のように 8 時までには伸ばすことは難しいですか？

【委員】様々な意見があり、利用したいけど行けない、という声にも応えてほしい。例えば週の一番利用の少ない時間を、別の日の夜間につけるなどしてはどうですか。

【館長】6 時閉館になって今年で 4 年目です。開館時間を短くした年の利用はあまり減っておらず、時間を長くすれば利用が増えるのかということもそういうものでもない。今後駅前のことなどを含めて図書館を巡る条件が変わればわかりませんが、現状では、今すぐの見直しは考えられない。要望があることは受け止めます。

【次長】開館時間が増えれば利用者が劇的に増えるなら検討の余地がありますが、以前の利用状況を見るとその可能性は低い。経費や人員配置の問題もあり、今すぐには難しい。

【委員】開館時間の変更によって改善されたことは何ですか。

【館長】早番、遅番の交代勤務がなくなり、全員が揃って仕事ができることです。

【委員】今は前と違って時間差勤務でないので、朝来たときにカウンターにたくさん職員がいて安心します。声をかけやすい。

【委員】カウンターやフロアの職員の数が少ないと、「お工作中すみません」という気持ちになり、声がかげづらい。数値には表しにくい改善事項について、市民に知らされていないのではないのか。効果が見えるとよいのでは。

【次長】市民への広報と、満足度の向上が課題です。

【委員】年齢別の利用を見ると、かつて図書館利用を支えていた 30 代の利用が平成 26 年から半分になっています。もう 1 つ前の 20 代、大学生の利用も減ってきてます。高校生も本を読まなくなっており、本を読まないまま社会人になっている人も多い。このままいくと 30 代はもっと減っていってしまいます。

【委員】パソコンとケータイとの関係が大きい。中高生もちょっとしたことでネットで調べている。大学生も、何か調べるときにこれまでなら本で調べていたが、今は私達が想像する以上に、パソコンやネットで調べている。いいことも悪いことも手軽に出てくる。30 代の人利用が減っているのも、そういうものに使い慣れた世代が増えているからかもしれない。

【委員】学生と関わっているが、何でもインターネットで調べて、ちょっと表現を変えておしまい、ということが多い。断片の積み重ねになってしまい、それでは何かを

系統だてて考える力が育たず、学問のための力が身につかない。総合的な力がない。

【委員】論理的な考え方ができなくなる。大学では「コピペは0点」なので、1回生もレポートなど一応自分の言葉では書いてきますが…。

【委員】漫画も本で読まず、インターネットで読む若者が増えており、本になっているものが読めない子も出てきています。

30代の利用が減るということは、その人の子どもが図書館に連れていってもらえないということでもあり、子どもの貧困の問題ともつながってくる。

【委員】20代の息子も図書館に行きません。どうアプローチしたらよいのか？

【委員】高校生の息子がいますが、朝から晩まで学校と部活で、図書館に行く時間のスペースが全くない。そういう子が大きくなって、図書館を利用する生活になるわけがない。小学生のうちと思うが、小学生も忙しい。

【委員】幼児の段階で、読み聞かせの心地よさを味わっておくことが大切。小さい時の図書館体験があれば、大きくなってからまた行くのではと思います。

【委員】大学の図書館は勉強のための図書館だが、そこで本と出会うこともある。個人的には、公共の図書館も自発的勉強に使えるようになれば、と思います。

【館長】席貸しだけの自習はお断りしていますが、図書館としては本を使った調べ学習については大いに使ってもらいたいと考えている。

【委員】大津市の図書館には学習室があり、朝若い人が多く利用している。そういったところから図書館に親しむこともあるかと感じている。

<図書館評価について>

【次長】今回自己評価を先に皆様に提示した上で外部評価をお願いしていますが、自己評価のA～Dの採点が外部評価に影響するのではという懸念があります。

【委員】このやり方は、一般的なやり方だと思います。長浜市でも同じような形をとっています。自己評価をどういう観点でAをつけたかなど、長浜市では職員と図書館協議会が懇談しながら評価を行っています。

【次長】別の部署で同じようなやり方をして、自己評価と外部評価の点数が一緒になってしまった例があります。

【委員】自己評価が一つの目安にはなりません。

【館長】次回の図書館協議会は9～10月を予定しています。そこまでに外部評価をまとめられれば、来年度の予算に反映させることができます。

【会長】評価する13項目について、A～Dの外部評価と文章部分についてこの場で協議していきます。ただ、評価をする上で、BとCの基準を決めないと評価できないと思います。

【委員】県では目標の8割達成でも「ある程度達成＝B」にしている。

【会長】項目1の貸出冊数については前年比△1.5%で自己評価B、項目2の中主分館の貸出冊数については前年比△4.9%で自己評価Cになっている。この数値の差をBとCで表現しているようですが、人口が増えているのに数字が下がっているのは、目標が達成できていないということではないでしょうか。辛口に両方ともCとしたい。

【委員】項目1の取組み方法が「PRの工夫」のみというの甘いのではないですか。

【委員】中主分館の貸出冊数の目標設定が低いのではないのでしょうか。もっと利用されていくようにしなくてはいけない。現在おはなし会は本館だけですが、中主分館でも開催してもらえれば、親子連れの利用につながるのではないかと考えます。

【館長】検討します。

【委員】周囲の人に聞くと、図書館に中主分館があることを知らない人が多い。中主分館には案内標識もないのでは。

【次長】広報で特集を組んでもらってもよいのではないですか。

【会長】広報は、新聞をとっていないと入ってこない。インターネットでわかるようにする必要があります。

【委員】イベント時にHPに掲載を。LINEなどでお知らせできるとよいのですが。

【次長】LINEは市では情報セキュリティ上、難しい。

【委員】項目3の人口一人当たり貸出冊数の12.6冊というのは、他の市町村と比べてどうですか？

【委員】全国でみると上位のところでも10冊くらいなので、高い数値ですが、野洲市は本館ができてすぐは15冊くらいありました。本館も中主も落ちているので、評価としては厳しい。

【会長】他の市と比べると高いのはわかりますが、目標値だけを見るとC評価ではないのでしょうか。

【委員】野洲市は高島市には負けている（昨年度に限って言えば勝っているが、昨年度の高島市は予算が大きく減ったという理由がある）。野洲市は自治体の条件は高島市よりずっとよい。その意味では厳しくみてもよいのでは。

【会長】評価はCとします。目標は高いが、利用が減ってきているという事実を受け止めてほしい。

【会長】項目4の児童一人当たり貸出冊数は、目標達成しているのでA。コメントとして、中主分館でもおはなし会を開催してほしいということを入れます。

項目5の団体貸出冊数はAだが、現状を考えるとH34年の目標値が低すぎるのではないですか。もっと高く設定してはどうでしょうか。

項目6の市民の登録率は目標達成をしていないのでCとします。

【委員】子どもも親のカードと一緒に借りてしまっている場合も多いのではないですか。

【会長】来館者アンケートは先日実施されたが、「来ていない人へのアンケート」は取れないか？むしろ「なぜ図書館を利用しないのか」についての意見が必要。例えば駅前で行うとか、他のイベントで行うとか。

【次長】やすまる広場などで、「中主分館を知っていますか」というアンケートなどは、効果があるかもしれない。

【委員】図書館への第一歩は、就学時ではないかと思えます。新1年生に登録用紙を配布したり、夏休みにブックリストを配布するなどしてはどうですか。

【事務局】現在、夏休み前には「とくばんほんはともだち」というブックリストを、市内全小学生に配布しています。

【会長】項目7の市民の新規登録者数について、項目6と同じでCとします。

項目8のレファレンスの認知度については、認知度は目標を下回っているが満足度は高いということでB。ただどういったものがレファレンスカを知らない利用者も多いのではないかと。どういう聞き方をするか、アンケートにも工夫が必要。

項目9の郷土資料の受入冊数についてはある程度達成のBとします。これはどのように収集しているのか？

【委員】地域資料はどのようなものが作成されているか、図書館で把握しづらいところもある。

【会長】野洲市役所関係の資料の収集が十分ではないのではないかと。また目標値が妥当かどうか、確認をお願いしたい。

項目10のおはなし会参加人数についても、内部評価はAですが目標をもっと高くしてはどうですか。

項目11の関係機関、団体との連携事業についてもAだが、こちらも目標値をもっと高く設定してはどうですか。

項目12の郵送貸出、宅配の実利用者数について、目標は達成しているのでAですが、対象が1800人と考えると目標が1%というのは少なすぎるのではないのでしょうか。障がい者差別解消法のこともあり、こちらも目標値の見直しを要望します。

項目13の職員の対応についての満足度は、目標達成していないのでCとします。アンケートの回答から対策を検討してほしいと思います。

【委員】無回答の人が前回のアンケートのときより増えているのは何故ですか。質問が抽象的すぎるのでしょうか。

【委員】アンケートは、職員が配布して職員の近くの記載台で記入することが多かったとのことですが、近くにいる職員のことを書きにくくて無回答、という可能性もあります。人の評価は距離があいた方が書きやすい。

【委員】この項目を必須の項目にしてはどうか。アンケートの聞き方に工夫が必要。

【委員】特別支援学校との関係はどうなっていますか。例えば野洲養護学校は県の教育委員会の所管ですが、市町の図書館からはサービスの対象外になりがちです。

【事務局】野洲養護学校の北桜校舎には、毎年野洲図書館からおはなし会に出向いています。昨年は小学部から2回図書館見学に来館され、おはなし会を実施しました。また職員が小学部に出向いてのおはなし会も実施しています。今年度も依頼があればぜひお受けしたいと考えています。

【委員】他の自治体で養護学校などに出向く際のアドバイスとして、事前の見学を薦めています。反応のしかたとかは人によってさまざまなので、雰囲気がかめまます。実施する側にとっても、振り向いてくれただけでもよしとするなど、参考になります。また先生と話をすると、どんな作品がよいのかよくわかる。

【委員】これからは、地域にある学校に対して図書館としてどうするか考えることも

必要となってきます。

【委員】サマースクールでボランティアグループとしておはなし会をしています。びわこ学園には、毎年特定のボランティア団体がおはなし会に行っていますが、長くなってマンネリ化しているので、今後は市内の他の団体にも機会を譲っていきたいと考えています。

(3) 滋賀県公共図書館協議会「図書館キャンペーン委員会」の取り組みについて

(4) その他 図書館関係記事紹介

【事務局】(資料に沿って説明)

【会長】他にご意見などはありますか。それでは議事はこれで終了します。

4. 閉 会

平成 30 年度 第 1 回図書館協議会 次第

平成 30 年 6 月 17 日 (日)
野洲図書館 本館
午前 10 時～

1. 開 会

2. 新委員紹介

3. 議 事

(1) 平成 29 年度図書館事業報告について

(2) 平成 29 年度図書館の評価について

(3) 滋賀県公共図書館協議会 「図書館キャンペーン委員会」の取り組みについて

(4) その他

*次回の会議予定

4. 閉 会

配布資料一覧

事前送付資料

- ① 平成 29 年度野洲図書館事業報告
- ② 平成 29 年度野洲図書館 図書館の評価について
- ③ 平成 29 年度利用者アンケート結果報告

当日配布資料

- ④ 平成 30 年度野洲図書館協議会委員名簿
- ⑤ 地域別利用状況
- ⑥ 日本図書館協会調査 市区町村立図書館の統計より
- ⑦ 平成 29 年度 滋賀県の図書館統計
- ⑧ 滋賀県公共図書館協議会刊行冊子「しってる!?!わたしたちの図書館」
- ⑨ 図書館だより 6月号
- ⑩ 一日図書館員 募集チラシ
- ⑪ 図書館カレンダー
- ⑫ 図書館関係記事
- ⑬ 「図書館協議会について（新委員さんのみ）」
- ⑭ 暮らしのなかに図書館を ～これからの野洲図書館のあり方について～」（提言） 野洲市図書館協議会 平成 26 年（2014 年）3 月
（新委員さんのみ）

野洲図書館 図書館の評価について評価項目(案)

	分野	項目	目標【H34 (2022年)】	目標 (H29)	備考	「提言」の該 当箇所	取組み方法	28年度 の実績	29年度の 実績	自己 評価	課題・問題等	外部 評価	外部評価の意見
1	貸出	貸出冊数 (個人貸出、市民+在勤者)	540,000	539,900		(1) ~ (11)	PRの工夫	539,896	531,355	B	前年比△1.5%。長期的に微減傾向が続いている。未利用者への働きかけが必要。	C	・人口が減っていない中での貸出減少は大きな課題です ・取組みがPRの工夫だけでは寂しいです ⇒追加の取組みを検討願います
2	貸出	中主分館の貸出冊数 (個人貸出、市民+在勤者)	39,000	38,800		(1) ~ (11)	購入図書の内容見直しおよび本館の資料との入替え	38,721	36,829	C	前年比△4.9%。NO1と共通の課題の他に蔵書の見直しが必要。	C	・中主分館はまだ認知度が低いと感じる ・中主分館こそPRが必要ではないですか ・中主分館でもお話を開いてはどうですか
3	貸出	人口一人当たり貸出冊数 (合計)	12.8	12.7	他市と比較するときは市外の利用も含めた合計を人口で割ることが一般的。個人貸出合計/人口	(1) ~ (11)、(14)	①一般向け利用啓発のポスター (チラシ) 作成②転入者向け簡易案内作成③市内の会社向けの利用案内作成	12.7	12.6	B	NO1と課題が同じ。取組の②は年度末に実施したため効果がまだ出ていない。③は作成済だが配布が未実施。	C	・目標自体が高い数値であることは理解しますが、目標未達であることから“C”判定とします
4	貸出	市の児童一人当たり貸出冊数 (市民のうち児童)	12.5	12.3	市内の児童 (0歳~12歳で積算) の貸出	(4) (5) (14)	①児童向け行事のチラシ作成②転入者向け簡易案内作成③学校・園に出向いた際に図書館の利用をPR④図書館HP内児童用ページの改訂	12.2	12.6	A	一般の貸出の微減に対し、児童 (0~12歳) の貸出冊数は横ばいまたは微増傾向にある。予定の取組みは30年度に実施予定。	A	・中主分館でもお話を実施されてはどうですか
5	貸出	団体貸出冊数	27,000	25,900		(11)	団体貸出セット数の追加等 読書活動推進講座でのPR (学校・園対象)	25,574	28,068	A	利用が増えても要望時期が重なって希望に添えないことがないように留意が必要。	A	・団体貸出の要望が活発なようです ⇒H34の目標値を見直しを要望します
6	登録	市民の登録率	22%	21.8%	実利用者数/市の人口	(1) (14)	①一般向け利用啓発のポスター (チラシ) 作成②転入者向け簡易案内作成③市内の会社向けの利用案内作成	21.7%	20.7%	C	NO1と課題が同じ。	C	・図書館を利用されていない方へのアンケートを検討してはどうですか (利用しない理由を聞き、対策を検討するため) ・小中学校への申込みの働きかけを検討願います
7	登録	市民の新規登録者数	1,200人	1,180人		(1)	転入者への働きかけブックスタートにおいて赤ちゃんから登録可能な点をPR	1,173人	1,028人	C	転入者用の案内を年度末に作成したため効果がまだ出ていない。	C	・図書館を利用されていない方へのアンケートを検討してはどうですか (利用しない理由を聞き、対策を検討するため) ・小中学校への申込みの働きかけを検討願います
8	問い合わせ	資料に関する問い合わせ件数、レファレンスに関する認知度・満足度	件数：5,300件 認知度：60% 満足度：80%	件数：5,180件 認知度：50% 満足度：70%		(3)	日常の窓口業務の目配り、フロアワーク、アンケート (認知度・満足度を計る)	5,147件	5,474件 認知度：49% 満足度：92%	A	館内での案内は29年度当初に数十枚設置している。認知度を更にするためには別の手立てを考える必要がある。	B	・“レファレンス”という言葉がわかりにくいために認知度が低く出ているだけではないですか ⇒来年度はアンケートを工夫されてはどうでしょう

9	蔵書	郷土資料、地域資料の受入冊数	420冊/年	420冊/年		(2) (13)	市役所各課作成資料の収集。市HP上の資料の受入等。	371冊	414冊	A	30年度に各課への依頼方法、収集方法を見直す予定	B	・市役所の資料等云わば身内の資料が集められていない ⇒目標値が妥当か確認が必要ではないですか
10	集会行事	おはなし会参加人数	2,850人	2,750人	職員実施のおはなし会の参加人数で積算	(4) (5)	チラシ等によるPRの工夫	2,727人	3437人	A	出張おはなし会の要望が増えたため大きく伸びた。このうち、館内でのお話会は日曜の開催時間を午前に変更したこともあり、前年比94人増。	A	・おはなし会への要望が高いようです ⇒H34の目標値を見直しを要望します ・養護学校など今まで読み聞かせに行っていない施設への読み聞かせも開拓されてはどうですか
11	連携事業	関係機関、団体との連携事業	7回/年	7回/年	資料の特設や展示など。	(12) (13)	掲示板による呼びかけ等	5回	17回	A	朗読会、生物多様性の展示、ほか資料展示14回。目標数値の見直しが必要	A	・連携事業を活発に実施いただいて評価できます ⇒H34の目標値の見直しを要望します
12	障がい者サービス	郵送貸出、宅配の実利用者数	18人 (登録率1%)	3人	サービス対象の手帳保持・要介護者：総計1733名 図書館利用カード登録者でサービス対象者数は不明	(8) (9)	HP等での広報、関係機関へのPR等	-	3人	A	29年度は広報に1回掲載、HP掲載したが、それ以外のPRを30年度から取組み予定。	A	・実施するからには、H34の目標値1%は低すぎるように感じます ⇒H34の目標値の見直しを要望します
13	接遇	職員の対応についての満足度	90%	85%		(15)	アンケートにより満足度を計る	-	81%	B	無回答が前回25年度の6%から14%へ上がっている。満足度は85%から81%へ減少。自由記述ではおおむね肯定的な感想が多いが、否定的な意見を参考に全職員の窓口対応を向上させるようつとめる。	C	・コメントが概ね良好なことと無回答が増えていることから、職員が回りに居るところでは職員の評価を書きにくいのではないのでしょうか ⇒アンケートのやり方の工夫が必要ではないでしょうか ・アンケートのコメントを確認いただき、改善への具体的な落とし込みと取組みを要望します

* 図書館協議会の「提言」の番号は「提言」p6の「野洲図書館のこれからのサービスのあり方」の項目番号。

* 上記目標に入っていない項目は(16)施設・設備(17)図書館情報システム。どちらも毎年検討し、予算化されたものは実施している。

評価基準(案)	A	目標を達成できた
	B	目標をある程度達成できた
	C	目標をあまり達成できなかった
	D	目標をまったく達成できなかった

* 評価の期間は5年。目標設定は5年後を設定し、それに向けて1年ごとの目標値を定め、毎年評価を実施する。

* 評価の方法：図書館で自己評価を実施。(毎年4月末まで)それを元に、図書館協議会に外部評価を実施してもらう。

* 平成29年度の評価は30年度に試行し見直し。本実施は30年度～34年度で作成する。

* 貸出冊数に関する目標数値は社会的要因によるところも大きいいため、県内図書館の状況とも比較して評価を行う。(県内の公共図書館の平均数値との比較など)